

『当たり前』の捉え

毎日、校内環境や授業の様子を見て回る中で、常々思うことがあります。それは、環境、構え・姿勢の大きな差です。その差の具体を一つ挙げるとしたら、教室環境。括りとして当てはまらない所もありませんが、学年によって、学級によって、曜日によって、授業によつて、異なる状況が生じます。

机列、机上、ロッカー、黒板、掲示物等、整っている教室を見ると、気持ちのよさとともに、一人ひとりの環境に対する意識の高さを感じ、嬉しく思います。また、じっくりと授業に臨む姿も目に浮かびます。

対して、机列が乱れ、ロッカーからカバンがはみ出し紐が垂れ、黒板の消し残しがあり、予定黒板の字が雑であるといった状況を目にすると心配になります。落ち着いて、集中力を発揮して授業に臨むことができているのだろうか。

こうした環境について、委員会や気付いた生徒の呼びかけによって改善・維持されているところも大きいと思われます。また、先生方の声掛けによるところもあると思います。更に言えば、委員会や気付いた生徒が動いてしまう（改善してしまふ）こともありません。公共物である黒板や欠席者の場所だつたらまだしも、当人がその場にいるのにも関わらず、その生徒の私物をきれいに整えるというのはどうでしょうか？

もし、当人がその場にいるのであれば、当然、その当人がやるべきです。気付いた者がやってしまったことで、その生徒にとっての『**当たり前**』のレベルを低下させることになります。

「何もしないのが当たり前」↓机の中、ロッカーの中には入れているという見解に至る。

「やってもらおうのが当たり前」↓誰かに指摘されれば、「今、やろうと思っていたのに、誰かが勝手にやった」と主張する。指摘された内容・人を受け止め受け入れることができなない。

といった事態を招くことが容易に想像できます。

自分にとつて『当たり前』と考えていることであっても、誰もが同じ思い・捉えではありません。自分の考えだけに固執することなく、相手の立場・考えを受け止めようとする、やるべきことを、当人が一つずつクリアしていくことが大切であると言えます。

また、やってもらった際には、『感謝を伝えること』を当たり前にするのです。

全てを基本的な『礼儀』と言ってしまえばそれまでですが、こうしたことがなかなかできないんですよ。『当たり前』と全員が意識して行動できれば、すぐに結果にもつながると思うのですが。

教室ロッカーの明暗

